

三島 日本大学 同窓会々報

第 10 号

昭和 53 年 11 月 3 日
静岡県三島市文教町 2
日本大学三島同窓会発行

幹事会開催される

昭和五十三年度日本大学三島同窓会幹事会は、十月六日（金）十八時より、母校三島校舎八号館において五十四名の幹事出席のもとに行われた。

会は瀬川一男事務局長の司会で進められ、種房繁会長の挨拶の後議長団・書記の選出が行われた。議長に中塩利雄氏、副議長に田村栄一氏を、書記には土屋忠得氏、伊丹裕子さんをそれぞれ選出し議事に入り、次の事項を承認した。

- 一、昭和五十二年事業報告
- 二、昭和五十二年決算報告
- 三、監査報告

（以上四頁参照）

- 四、昭和五十三年事業計画
- 五、昭和五十三年度予算案

（以上五頁参照）

- 六、玉津先生を囲む会報告
- 七、その他

なお、事業関係は瀬川一男事務局長、予算・決算関係は石川貞夫会計担当常任理事からそれぞれ説明、監査報告は中島敏男会計監査から、玉津先生を囲む会報告は、小野 武氏から報告が行われた。また、その他の項で国際関係学部開設についての要望書を大学に提出したい旨、奥田吉郎氏から提案され可決された。

幹事会終了後、同館別室で相田信次常任幹事の司会で懇親会が、親しく催された。なごやかな雰囲気が続くなかで一同楽しいひとときを過ごした。

文理学部(三島)次長に岩城教授就任

教授会満場一致で選任

文理学部(三島)次長選任に関する三島教授会が、昭和五十三年二月二十五日正午から開催され、教授会の全員一致により岩城之徳教授が選出された。

昭和五十三年三月八日付で文理学部(三島)次長兼短期大学部(三島)次長に就任した岩城之徳教授は、昭和二十三年三月法文学部文学科(国文学専攻)の卒業で本年五十四歳。日本大学卒業後北海道大学に学び大学院五年課程を修了した。専攻は近代日本文学で、わが国における石川啄木研究の第一人者として知られる。「石川啄木

常任幹事会は連絡のとれ易いものというところで構成されており、幹事会なり、総会なり、行事や下相談の案件があることに会合をもっており。出席率はすこぶるよく、構成は、会長・副会長・事務局長の三役に会計担当として石川貞夫氏、庶務担当として角田義

玉津先生、付属三島高校顧問に就任

昭和二十二年から三島にご勤務され、この三月六日にご定年を迎えられた玉津徳太郎先生は、昭和五十三年度から付属三島高校顧問にご就任された。先生は三島在職三十有余年のうちの十三年間にわたり、付属三島高校長としてその任につかれ、まず三島高校の教育方針および教育目標を明確にし、その教育運営にあたっては、生徒の入学目的によって普通科男子を文系・理系に分け、さらに普通科女子、工業と四集団に分化させ、その連帯にも気をくばり、校風とともに教育活動の諸様式を確立された。

廣氏、常任幹事として西村満男氏、宮沢主計氏、井川一見氏、市川紀子氏、高田菊平氏、久保田勝氏、内藤正昭氏、佐野勝己氏、小出博氏、土屋忠得氏、柴田正氏、土屋貞明氏、小早川隆義氏、宮沢愛子氏、染谷徳昭氏、田中由雄氏、相田信次氏、鈴木正、久保田

国際関係学部設立

要望書(案)

日本大学三島学園は、昭和二十一年六月に旧制予科として発足しその後、主として新制大学の一教育課程を担当しながら、短期大学部、高等学校を併置しつつ総合学園として発展してきましたが、

部が是非とも設立されますよう祈念し、同窓会員の総意としてここに要望いたします。

昭和五十三年十一月三日

日本大学三島同窓会長

種房 繁

日本大学文理学部(三島)

次長 岩城 之徳殿

常任幹事会の構成

博明氏、榎本睦美氏、坂田裕子氏それに監査の持田光雄・中島敏男氏である。このメンバーは、十一月三日の総会で承認願う予定であります。

このことは今日の我が国の国際的環境と三島学園生成発展の歴史的過程に照して時宜に即したものであり、かつ極めて望ましい内容を有するものとして深い賛意を表するものであります。この機に臨み、

昭和五十三年十一月三日の本総会において、設予定の国際関係学



日本大学三島同窓会役員一覧

昭和53年11月3日改選

会 長	種房 繁	幹 事	中浜 卓弥	幹 事	関 哲男	幹 事	望月 和衛
副 会 長	奥田 吉郎	幹 事	中塩 利雄	幹 事	道見 俊広	幹 事	江本 博勝
副 会 長	東 賞平	幹 事	北條 晃	幹 事	小野 武	幹 事	秋山 稔明
副 会 長	遠藤 逸雄	幹 事	長田 涉	幹 事	渡部 浩司	幹 事	西 茂野 (山口)
事務局長	瀬川 一男	幹 事	山内 茂	幹 事	市橋 悟	幹 事	加藤 和代 (牧野)
常任幹事 (会計担当)	石川 貞夫	幹 事	中島 信行	幹 事	朴沢 英憲	幹 事	石井千枝子
常任幹事 (庶務担当)	角田 義廣	幹 事	木村 幸夫	幹 事	平井 千枝	幹 事	前田 正丈
常任幹事	西村 満男	幹 事	勝俣 敏充	幹 事	吉野 洋一	幹 事	藤本 哲雄
常任幹事	宮沢 主計	幹 事	杉山 吉房	幹 事	横田 晋郎	幹 事	野田 栄
常任幹事	井川 一見	幹 事	柳下 孝子	幹 事	鈴木 肇	幹 事	秋山 紀子
常任幹事	市川 紀子	幹 事	芦澤 克治	幹 事	御供 政紀	幹 事	久幸 克己
常任幹事	高田 菊平	幹 事	石川 進	幹 事	小沢 文郎	幹 事	瀬川 安
常任幹事	久保田 勝	幹 事	白鳥 義仁	幹 事	小石川宣照	幹 事	遠藤日出男
常任幹事	内藤 正昭	幹 事	宮崎 茂樹	幹 事	大西 良雄	幹 事	渡辺 博夫
常任幹事	佐野 勝己	幹 事	渡辺 勝一	幹 事	小川 武司	幹 事	藤幡 利一
常任幹事	小出 博	幹 事	辻 省二	幹 事	谷崎 邦昭	幹 事	江川 洋
常任幹事	土屋 忠得	幹 事	長倉 祐作	幹 事	栗山 康雄	幹 事	矢沢 知秋
常任幹事	柴田 正	幹 事	鈴木 邦良	幹 事	荒木とよ子	幹 事	小松 省二
常任幹事	土屋 貞明	幹 事	吉田 敏雄	幹 事	宮下 正俊	幹 事	石橋 正雄
常任幹事	小早川隆義	幹 事	浅原 好胤	幹 事	田中 義人	幹 事	田村 実
常任幹事	宮沢 愛子	幹 事	黒滝 祐司	幹 事	浅見 元	幹 事	伊丹 裕子
常任幹事	染谷 徳昭	幹 事	小林 義尚	幹 事	上田 定義	幹 事	南沢 巧子
常任幹事	田中 由雄	幹 事	今関 邦彦	幹 事	荻野谷 肇	幹 事	飯山 栄子
常任幹事	相田 信次	幹 事	佐藤 力男	幹 事	中山 義昭	幹 事	木村 裕子
常任幹事	鈴木 正八	幹 事	田村 栄一	幹 事	吉田 力	幹 事	塩野 洋子
常任幹事	久保田博明	幹 事	宮澤 基人	幹 事	雨角 勇	幹 事	土屋由美子
常任幹事	榎本 睦美	幹 事	鈴木 稔	幹 事	瀬村 隆治	幹 事	横山 栄
常任幹事	坂田 裕子	幹 事	上野 実	幹 事	林田 孝二	幹 事	加藤 晴俊
会計監査	持田 光雄	幹 事	見上 勇逸	幹 事	野際 賢治	幹 事	井上 政義
会計監査	中島 敏男	幹 事	関本 文彦	幹 事	長倉 良幸	幹 事	宮川 守
幹 事	高田日出太郎	幹 事	真部 義孝	幹 事	松下 敬子	幹 事	加藤 博昭
幹 事	馬場 康夫	幹 事	結城 勇一	幹 事	平岩美知子 (金子)	幹 事	津田 正克
幹 事	中野 繁	幹 事	小椋 貞夫	幹 事	浜田 義之	幹 事	岩崎 尚枝
幹 事	石川 三雄	幹 事	坂詰 正衛	幹 事	菅野 利幸	幹 事	関野世津子
幹 事	小野 真一	幹 事	鈴木 義樹	幹 事	前山 良光	幹 事	小永井京子
幹 事	米内 国夫	幹 事	望月 知林	幹 事	山口 良児	幹 事	高橋真理子 (大場)
幹 事	澤 直和	幹 事	丸山富美男	幹 事	深井 富雄	幹 事	小田切美佐子 (谷村)
幹 事	滝川 昇	幹 事	麓 高明	幹 事	早川 清文	幹 事	長倉 隆子
幹 事	秋山 正幸	幹 事	安東 安生	幹 事	河田 哲雄	幹 事	市川 洋子 (小島)
幹 事	西村美枝子 (長谷川)	幹 事	田嶋 文義	幹 事	加藤 久貴	幹 事	杉山 謙
		幹 事	寺崎 哲郎				

昭和52年度 事業報告

1. 奨学金の給付並びに同窓会長賞授与

昭和52年度日本大学文理学部（三島）在学生より、次の者が推薦された。短大関係は、3月24日の卒業式当日、学部教養課程関係は、4月10日の三島校舎開講式当日、それぞれ授与式が行われた。

奨 学 金 2 名 鈴木一郎（法）、井上裕紫（法）

同窓会長賞 8 名 松村啓子（国文）、上原豊和（建築）、小松真由美（商経）、川島令子（食栄）、西家勝彦（機械）
北島 薫（二部）

1. 学園歌集発行

学園歌19首を36頁に収め、4,000部を発行し、三島校舎新入生全員に入学祝として渡した。（別紙歌集参照）

1. 会 報 発 行

会報第8号、52年12月3日発行 8頁 5,000部（別紙会報参照）

会報第9号、53年3月1日発行 8頁 6,000部（別紙会報参照）

1. 総会並びに懇親会

昭和52年11月3日(木)16時から、総会並びに懇親会を、日本大学文理学部（三島）記念館で開催した。（会報第9号1頁参照）

1. 幹 事 会

昭和52年6月24日(金)18時から、日本大学文理学部（三島）8号館で開催した。（会報第8号1頁参照）

昭和52年度 収 支 決 算 書

（昭和52年4月1日～昭和53年3月31日）

（単位：円）

支 出				収 入			
項 目	予 算 額	決 算 額	差 異	項 目	予 算 額	決 算 額	差 異
奨 学 費	150,000	69,270	80,730	会 費 収 入	1,500,000	1,546,500	△ 46,500
学 園 歌 集 発 行 費	200,000	195,000	5,000	利 息 収 入	430,000	456,743	△ 26,743
同 窓 会 報 発 行 費	450,000	276,000	174,000				
各 科 同 窓 会 補 助 費	100,000	20,000	80,000				
総 会 並 び に 懇 親 会 費	250,000	227,400	22,600				
会 議 会 合 費	300,000	298,010	1,990				
通 信 運 搬 費	100,000	104,210	△ 4,210				
事 務 費	50,000	0	50,000				
雑 費	150,000	190,380	△ 40,380				
予 備 費	200,000	0	200,000				
計	1,950,000	1,380,270	569,730	計	1,930,000	2,003,243	△ 73,243
基 金 繰 入 額	0	600,000	△ 600,000	基 金 繰 出 額	0	0	0
次 年 度 繰 越 金	80,911	123,884	△ 42,973	前 年 度 繰 越 金	100,911	100,911	0
合 計	2,030,911	2,104,154	△ 73,243	合 計	2,030,911	2,104,154	△ 73,243

貸 借 対 照 表

（昭和53年3月31日現在）

（単位：円）

借 方		貸 方	
項 目	金 額	項 目	金 額
普 通 預 金	623,884	基 金	8,000,000
定 期 預 金	7,500,000	前 年 度 繰 越 額	7,400,000
		本 年 度 繰 入 額	600,000
		次 年 度 繰 越 金	123,884
合 計	8,123,884	合 計	8,123,884

昭和52年度収支について関係帳簿ならびに証憑書類を精査いたしましたが、記帳その他正確であることを認めます。

昭和53年10月5日

会計監査 持 田 光 雄 ㊞

中 島 敏 男 ㊞

昭和53年度 事業計画

1. 奨学金給付並びに同窓会長賞授与

日本大学文理学部（三島）を昭和54年3月卒業予定（短大）、移行予定（学部教養課程）の者を対象として行う。

教養課程（法、経、商、文理）……………若干名奨学金（2名程度）

短大課程（専攻別）……………各1名宛奨学金または同窓会長賞

1. 学園歌集発行

昨年とまったく同じ内容で4,000部を印刷、新入生に渡す。

1. 会報発行

会報第10号（昭和53年11月上旬）発行 8頁 5,000部

会報第11号（昭和54年2月上旬）発行 8頁 5,000部

1. 名簿発行

会員名簿を作成する。更に短大科別、教養期別名簿作成を推進する。

1. 総会並びに懇親会

昭和53年11月3日（金）16時から日本大学三島校舎内で開催する。

1. 幹事会

昭和53年10月6日（金）18時から日本大学文理学部（三島）8号館において開催する。

昭和53年度 収支予算書

（昭和53年4月1日～昭和54年3月31日）

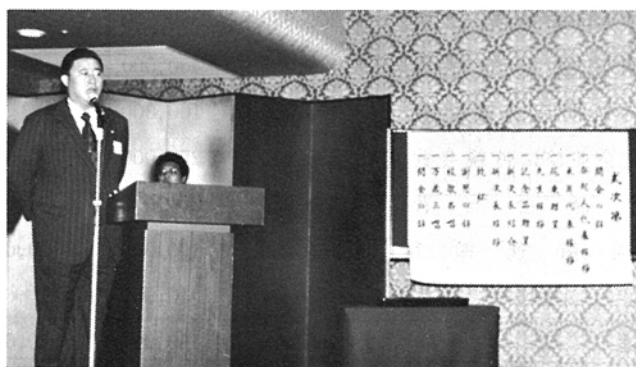
（単位：円）

支 出				収 入			
項 目	本年度予算	前年度予算	増 減(△)	項 目	本年度予算	前年度予算	増 減(△)
奨 学 費	150,000	150,000	0	会 費 収 入	2,730,000	1,500,000	1,230,000
学 園 歌 集 発 行 費	200,000	200,000	0	利 息 収 入	346,116	430,000	△ 83,884
同 窓 会 報 発 行 費	450,000	450,000	0				
各 科 同 窓 会 補 助 費	100,000	100,000	0				
総会並びに懇親会費	300,000	250,000	50,000				
会 議 会 合 費	330,000	300,000	30,000				
通 信 運 搬 費	150,000	100,000	50,000				
事 務 費	50,000	50,000	0				
雑 費	200,000	150,000	50,000				
予 備 費	200,000	200,000	0				
計	2,130,000	1,950,000	180,000	計	3,076,116	1,930,000	1,146,116
基 金 繰 入 額	1,070,000	0	1,070,000	基 金 繰 出 額	0	0	0
次 年 度 繰 越 金	0	80,911	△ 80,911	前 年 度 繰 越 金	123,884	100,911	22,973
合 計	3,200,000	2,030,911	1,169,089	合 計	3,200,000	2,030,911	1,169,089

註：会費は53年度から1,000円に改訂。

玉津徳太郎先生を囲む会 盛大に開かる

日本大学三島同窓会の設立・発展のために大変ご尽力いただいた玉津徳太郎先生が、この三月六日で満七十才を迎えられご退職になられた。この機会に先生を囲む会を開いたらとの話しが在京同窓生のあいだでもちあがった。何回もの発起人打合せ会の後、四月十五日東京プリンスホテルにおいて盛大に開催された。同窓生は、北は北海道から南は九州まで、予科生にはじまり、最近の卒業生まで、玉津先生のご指導をいただいた者二百数十名が出席した。また、大学からは鈴木昇六文理学部（三島）顧問、岩城之徳文理学部（三島）次長、吉原秀夫文理学部（三島）事務局長の御三方のご来賓をいただいた。会は午後五時から七時過ぎまで続いたが、在学中各パートの旗頭の集りだけに盛大を極め、同窓会はじまって以来の最大・最盛の会となった。なかにはこの会のあることを全然知らず、たまたまホテルをおとずれたところ、宴会案内の表示板を見て会場にとびこんだ卒業生もあった。





国際関係学部 目的と特色

目的

この学部の目的は、新しい時代の要請にこたえて広い国際的視野と、語学的要素を基礎に、国際関係を深く理解しうる人間の教育を目的としている。内容は世界各地域に進出している各種の事業、経営に役立つ地域専門家の養成を目標とする国際関係学科と、現代の国際社会における主要文化を深く理解し、国際的な文化事業や文化交流に役立つ人物の養成を目標とする、国際文化学科の両学科から成り立っている。

特色

両学科ともたとえばアメリカ地域の専門家といった人材を養成する必要上語学の指導に重点をおき第二外国語も英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、インドネシア語、朝鮮語、ロシア語から自分の好きなものを選ぶようになっている。また、二、三年次は外国語会話が必修で、三、四年次の外国語通訳法、外国語講読とあいまって、第一外国語

設置の事情

第二外国語共に自由に読み書き話す能力を身につけるようになるよう、指導に心掛ける。「実践に役立つ語学力」が新学部の大きな目標であり、特色にもなっている。

コース

国際関係学科はアメリカ地域部門・ヨーロッパ地域部門・アジア地域部門（中国・韓国・インドネシア）の三コースに分かれ、国際文化学科はアメリカ文化コース、ヨーロッパ文化コース、中国文化コース、日本文化コースの四コースに分かれる。

外国での短期研修

日本大学が現在姉妹校として提携し協定を結んでいるアメリカのワシントン州立大学、イリノイ大学、ハワイ大学、ドイツのベルリン自由大学、フランスのジャン・ムーラン大学、韓国の中央大学校など九つの外国の大学にお願いして、二、三次ないし三、四次に数か月間短期海外研修を行う計画のようである。

新設予定

国際関係学部紹介

国際関係学科 募集人員 一〇〇名
アメリカ地域コース
ヨーロッパ地域コース
アジア・オセアニア地域コース
国際文化学科 募集人員 一〇〇名
アメリカ文化コース
ヨーロッパ文化コース
中国文化コース
日本文化コース

卒業後の進路

国際関係学科は、日本の海外進出企業（鉱業・農林水産業・各種製造業など）の海外事業所、現地法人・国内部署・商社を含む卸売業、銀行業・保険業の海外部門、運輸・倉庫業、商品交流・資本交流を管掌する官公庁やその海外機関、外交官、通訳、ジャーナリスト、外資系企業の社員等。

国際文化学科は、通信宣伝広告・出版など広く情報産業に属するもの、人的交流に携わる旅行業・ホテル業などサービス業・学術文化団体・諸官公庁など文化学術交流を行い、あるいは外国と折衝する業務を行うもの、外交官・国際公務員・通訳・ガイド・翻訳者・海外における語教師・秘書など。

事務局だより

◇編集子が学内にいる関係上、その面のニュースからになります。国際関係学部を新設すべく、事務的な準備は昨年からはじまっており今年に入ってからその書類作成に追われてきましたが、その結果は十二月には吉報として聞くことができそうです。

◇四月十五日には、三島同窓会と深いかかわりのある玉津先生を囲む会が、十数名の発起人の骨折りで実現しました。古い期の方々が多かったわけですが、普段中々来られない人も何人か掛けつけられ看板を見て飛び込まれた方もおられました。玉津先生御夫妻も感激をおさえて喜びに浸っておられるように見受けられ、会員お互いどうしも同窓愛を温めあっている姿は大変すがすがしいものでした。

◇今回も会報の編集・発行が大幅に遅れ、まことに申し訳けなく思っております。次の十一・十二号に着手しますので、原稿の協力をまたよろしくお願いいたします。